

2022年9月増刊号『最新時事用語』に関して

2022年9月増刊号『最新時事用語』(2022年9月5日発売)について、
以下の修正点をお知らせ致します。

P.81 右下の内容につきまして一部表記に誤りがありました。

正しく修正したものを下記に掲載致します。

読者の皆様には、ご迷惑をお掛けしてしまい誠に申し訳ありません。

株式会社新聞ダイジェスト社

□ 原発問題

■ 東京電力福島第一原子力発電所の事故

・ **東日本大震災**に伴う事故。広範囲にわたる放射能汚染を生じさせた。

・ 除染状況

帰還困難区域を除き、2018年3月19日までに8県100市町村すべてで面的除染（全体をくまなく除染すること）が完了した。

帰還困難区域のうち、約27.5平方キロを特定復興再生拠点区域（復興拠点）として、22～23年春の避難指示解除を目指して除染を進め、復興拠点以外の帰還困難区域については、24年度をめどに除染を開始する予定。

・ **処理水**

事故後の処理作業や、雨水や地下水が原子炉建屋内などに入り込んで発生する**汚染水**は、複数の設備で**トリチウム**以外の放射性物質の濃度を低減させている（**処理水**）。

増え続ける**処理水**の処分について、21年4月に海洋放出する基本方針が決定。漁業関係者などからの意見をふまえ、東電は8月、**海底トンネル**を設けて原発から約1キロほどの沖合に放出すると発表した。**風評被害**を招くような情報の内容や発信源の分析などにも取り組むという。

・ 放射線の健康への影響

「原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）」は21年3月、事故の放射線影響に関する報告書（2013年版）を更新する2020年版を公表。

19年までの科学的知見に基づき検証した結果、一般市民の受けた放射線量は前回の報告書の値と同等かさらに低いものであり、健康影響は小さすぎて、他の要因による健康影響と識別できないと結論した。

周辺地域で**甲状腺がん**と診断される子どもが増えているのは、広範なスクリーニング検査が行われたためとの見解を示した。

■ 新規規制基準

・ 福島第一原発の事故を踏まえて原子力規制委員会が策定、13年7月施行。

・ ポイント

① 大規模な自然災害への対策

地震や津波、火山事象など、大規模な自然災害から受けるダメージを減じる。

② シビアアクシデントへの対応

設計を超える重大事故が起こった場合の対応を講じる。テロ対策に対する基準も新設。

③ 既設の原発にも適合を義務付ける

既設の原発に対して新規規制基準の適合性審査を実施。

■ 再稼働

福島第一原発の事故後、全国の原発は順次運転を停止。



新規規制基準のもと、**16 原発 27 基**（22年7月時点）が再稼働に向けた審査を申請。



10 原発 17 基が新規規制基準に適合したと判断され、**6 原発 10 基**が再稼働した。



再稼働後にテロ対策施設の完成遅れや損傷の発見などで一時運転を停止したものもある。

関西電力**美浜 3号機**は、テロ対策施設が設置期限に間に合わず、現在停止中（22年10月運転再開予定）。

22年8月4日現在運転しているのは、**5 原発 7 基**。

■ 問題

・ **核燃料サイクル**・・・使用済み燃料を再処理して取り出したウランやプルトニウムを発電に使う計画。プルトニウム利用の中核を担う予定の原型炉「もんじゅ」が廃炉になって頓挫している。

・ **東電柏崎刈羽原発**・・・テロ対策の不備が相次ぎ、原子力規制委が21年4月、運転を事実上禁止する命令を出した。

・ **関電高浜原発**・・・関電歴代役員らの金品授受問題が起きた。

こちらを修正しました。

・**関電伊方原発**・・・伊方原発は関電ではなく、四国電力の管轄でした。

・**再稼働を控えた3号機での度重なるトラブル**・・・伊方原発でのトラブルです。

(毎日新聞 2021年12月2日の記事より)「伊方3号機を巡っては、定期検査に入った直後の20年1月、制御棒を誤って引き抜くなどわずか1カ月間にトラブルが4件相次ぎ、定期検査は約半年中断。同月には広島高裁が運転差し止めを命じる仮処分決定を出した(後に異議審で取り消し)。21年3月以降はテロ対策施設の完成遅れにより、再稼働ができない状態になった。7月には、17～19年に社員(当時)が宿直勤務中に無断外出していたことが発覚。10月12日に再稼働させる計画だったが、再延期を余儀なくされた。」

・**関電歴代役員らの金品授受問題**・・・高浜原発3・4号機の誘致で地元をとりまとめた、福井県高浜町の元助役が関電歴代役員に金品を渡していました。

(毎日新聞 2021年4月3日の記事より)第三者委員会の調査報告書によると、森山氏が金品提供を始めたのは、1987年に高浜町助役を退任した直後だ。助役時代、森山氏は高浜原発3、4号機の誘致で地元をとりまとめ、関電と太いパイプを築いた。退任後は関電の子会社や取引先のメンテナンス会社、建設会社などで顧問や役員に就任。地元対策で頼る関電、仕事が欲しい取引先の双方に影響力を強めた。

・**住民らによる運転差し止めを求める訴訟**・・・伊方原発についての訴訟です。

(朝日新聞 2021年11月4日の記事より)四国電力が再稼働をめざす伊方原発3号機(愛媛県伊方町)をめぐる、広島県と愛媛県の住民7人が運転差し止めを求めた仮処分について、広島地裁(吉岡茂之裁判長)は4日、「保全の必要性は認められない」として、申し立てを却下する決定を出した。住民側は、広島高裁に即時抗告する方針。